

「成瀬ダムモニタリング委員会」 第6回委員会の開催結果について

成瀬ダム建設事業は、平成11年5月に閣議アセスに基づく環境影響評価書が公告・縦覧され、一連の環境影響評価手続きが終了しています。

成瀬ダム建設事業の実施においては、平成11年から施行された環境影響評価法や最新の知見等を踏まえ、環境への配慮が必要な事項について、環境の個別分野ごとに専門家の指導・助言を得ながら、成瀬ダム周辺環境の現地調査を継続し、環境保全の検討を行うとともに、既にその一部は対策を実施してきました。

ダム建設工事中の環境保全措置等を適切に実施していくため、工事中の環境モニタリングについて、専門家から指導・助言を得る「成瀬ダムモニタリング委員会」を平成29年3月6日に設立しています。

令和4年2月24日、秋田市内において「成瀬ダムモニタリング委員会」（第6回）を開催し、令和3年度モニタリング調査結果、生息環境整備の検討及び令和4年度モニタリング調査計画について報告・提案を行い、審議の結果、了承をいただきました。

委員会次第

日時：令和4年2月24日（木） 13:30～16:00（予定）

場所：ANAクラウンプラザホテル秋田 5階 カペラ（牡丹）

秋田市中通2-6-1 Tel 018-832-1111

- 議題：
1. 第5回委員会でのご意見に対する対応
 2. 令和3年度のモニタリング調査結果
 3. 生息環境整備の検討
 4. 令和4年度のモニタリング調査計画

※審議要旨は別紙に記載

《発表記者會》

秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社（大曲支局、湯沢支局）
日刊秋田建設工業新聞、建設新聞社秋田支局

【問合せ先】

国土交通省 東北地方整備局 成瀬ダム工事事務所
〒019-0801 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字宮田97-1
電話番号 0182-23-8438

調査設計課長 木村 博英 （内線 351）

審議要旨

1. 令和3年度のモニタリング調査結果について

- ・令和3年度のモニタリング調査結果について審議した。

①水質調査（別紙補足資料-1参照）

＜調査概要＞

- ・平成4年度から調査を実施している。
- ・調査項目は、一般項目（水温、濁度）、生活環境項目（pH、BOD、SSなど8項目）、富栄養化項目（アンモニウム態窒素、硝酸態窒素など7項目）、健康項目（カドミウム、シアンなど24項目）の調査を実施している。

＜調査結果＞

- ・令和3年度の調査結果は、例年同様、概ね環境基準を満たしていた。

【審議結果】

- ・濁水処理対策の実施状況について確認した。
- ・成瀬ダム建設工事に伴う影響はほとんど無いと考えられる。
- ・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。
- ・大腸菌群数の分析は令和4年度までとする。
- ・富栄養化にかかる項目の整理を行う。

②クマゲラ調査（別紙補足資料-2参照）

＜調査概要＞

- ・平成5年度からクマゲラの生息状況の調査と生息していた場合に生息範囲を確認する調査を実施している。

＜調査結果＞

- ・令和3年度の調査結果は、クマゲラのもものと推察される古い痕跡（巣穴等）の確認はなかった。

【審議結果】

- ・クマゲラのもものと推察される古い痕跡は、これまでにダム建設事業地内外で複数確認しており、生息している可能性はあるが、クマゲラを直接確認できていない。
- ・ダム建設事業地は、そのうちの一部であり、影響はないと考えられる。
- ・生息状況を把握するため、今後も調査を実施する。

③ー1植物モニタリング調査（R1移植）（別紙補足資料-2参照）

＜調査概要＞

- ・令和2年度にダム建設事業地内に生育する重要種のエゾヒメク라마ゴケ、タテヤマウツボグサ、テイネニガクサ、シロヨメナ、ヤマスカシユリ、ナベクラザゼンソウ、エゾスズラン、オニノヤガラ、アリドオシランの9種を移植し、その生育状況の調査を実施している。

＜調査結果＞

- ・令和3年度の調査結果は、エゾヒメク라마ゴケ、タテヤマウツボグサなど7種の生育を確認したが、エゾスズラン、オニノヤガラの2種の生育は確認されなかった。
- ・エゾスズランは建設事業地内で新たに自生が確認されたため、令和3年度に移植している。

【審議結果】

- ・タテヤマウツボグサ、テイネニガグサなど5種の移植後の生育状況は概ね良好であり、エゾヒメクラマゴケとシロヨメナの2種はやや不良と考えられる。
- ・オニノヤガラは地上部が出現しない年があるため、令和4年度も調査を継続する。

③ー2 植物モニタリング調査（R3移植）（別紙補足資料-2参照）

＜調査概要＞

- ・令和3年度はダム建設事業地内に生育する重要種のテイネニガクサ、新たに自生個体が確認されたエゾスズランの2種を移植している。

【審議結果】

- ・令和4年度は移植個体の生育状況を調査する。
- ・令和4年度はダム建設事業地近傍に生育するシラネアオイ、ミヤマハタザオ、ミヤマアカバナ、オニシオガマ、ノビネチドリ、センダイヤナギ、コアニチドリ、イヌマムカゴの8種の生育状況及び生育環境を調査する。

④ 希少猛禽類調査（別紙補足資料-3参照）

＜調査概要＞

- ・平成8年度から調査を開始し、平成10年度に「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」を設立し、鳥類の専門家の指導を得ながら調査を実施している。

【審議結果】

- ・イヌワシ・クマタカ調査委員会で審議したため、当委員会では結果報告のみ。

⑤ 魚類調査（別紙補足資料-3参照）

＜調査概要＞

- ・平成7年度より調査を実施している。
- ・平成26年度からは事業による影響を定量的に把握するため、調査対象魚種を6種として、同一箇所、同一手法で年3回（春季、夏季、秋季）調査を実施している。

＜調査結果＞

- ・田子内地区で6種、手倉地区で5種、草の台地区で4種が確認された。

【審議結果】

- ・調査対象魚種に変化はなかったが、確認個体数の変動があった。
- ・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

⑥ 産卵場調査（別紙補足資料-4参照）

＜調査概要＞

- ・令和2年度はサクラマス（ヤマメ）とアメマス類を対象として産卵場調査を実施している。
- ・令和3年度はカジカを対象として産卵場調査を実施している。

＜調査結果＞

- ・既往調査に引き続き産卵床が確認され、産卵環境は既往調査から大きな変化はみられない。

【審議結果】

- ・カジカの産卵環境は維持されていると考えられる。
- ・ダム運用前後の産卵場の状況を把握するため、ダム運用後も調査を実施する。

⑦大気環境調査（粉じん、騒音、振動）（別紙補足資料-4参照）

＜調査概要＞

- ・工事が最盛期となる１０～１１月に、粉じん（降下ばいじん量）、騒音、振動の調査を実施している。

＜調査結果＞

- ・粉じん（降下ばいじん量）、振動の観測値は本体着工前と同程度であったが、騒音の観測値は環境基準値を下回るものの、工事車両の増加により本体工事着手前より大きくなっている。

【審議結果】

- ・工事車両の増加により騒音が大きくなっていると考えられ、今後の変化に留意が必要である。
- ・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

2. 生息環境整備の検討

＜検討概要＞

- ・保全対象種のヒメアカネ、ヒメシジミ、ヒメシロチョウ、ゲンゴロウの生息環境を整備するため、湿地・池沼環境及び草地環境の整備規模及び整備内容を検討している。

＜検討結果＞

- ・湿地・池沼環境及び草地環境は、保全対象種の生息環境条件を踏まえ、複数年かけて整備し、段階に応じて出現する生物の生息・生育状況をモニタリングする計画とする。
- ・整備にあたっては、在来種による環境の創出や自然の営力による再生・復元を目指す計画とする。
- ・地形や水の供給、施工性、管理の容易さなどより、各創出環境の規模を設定し、湿地・池沼環境及び草地環境を配置している。

【審議結果】

- ・対象種の考え方と整備内容について、委員会の意見を伺いながら、検討を継続する。

3. 令和４年度のモニタリング調査計画

＜計画概要＞

- ・工期延長に伴い、大気環境、水環境などの調査期間を延長し、生態系典型性陸域・河川域、ダム下流河川の物理環境に関する調査の調査期間を変更する。
- ・令和４年度の調査項目は、定期水質調査、出水時調査、クマゲラ調査、植物モニタリング及び監視調査、希少猛禽類調査、魚類調査、大気環境調査（粉じん、騒音、振動）とする。

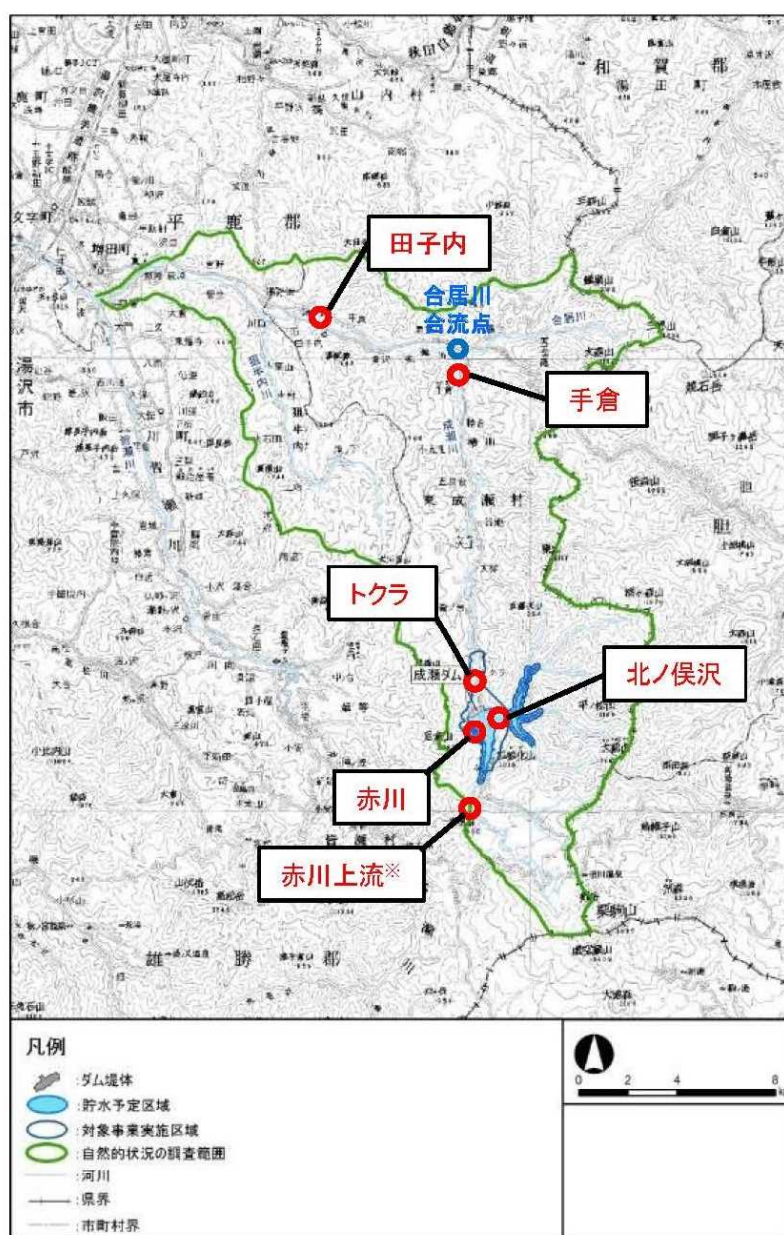
【審議結果】

- ・令和４年度のモニタリング調査計画について了承された。

以 上

① 質調査 参考資料

項目	令和3年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査日
定期水質調査	流入河川 ：北ノ俣沢、赤川、赤川上流 下流河川 ：トクラ、手倉、田子内 (計6地点)	流量 一般項目(水温、濁度) 生活環境項目 (pH、BOD、COD、DO、SS等) 富栄養化項目 (アンモニウム態窒素、硝酸態窒素等)	月1回 赤川、北ノ俣沢 ：4月～11月 赤川上流：5月～11月
		健康項目(カドミウム、全フッ素、鉛等)	年2回(5月、10月)

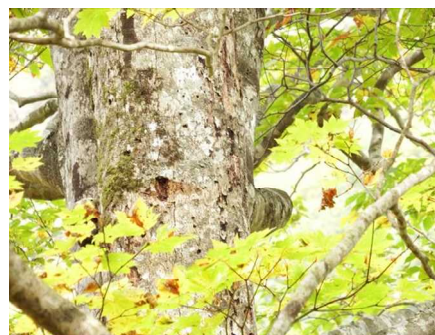


※赤川上流は、H30年9月から実施

水質調査地点 位置図

② マゲラ調査 参考資料

令和3年度調査内容		
調査地点	調査項目	調査時期
事業区域周辺の3地区	・ラインセンサス法 ・呼び込み法 ・地区センサス法	秋季 ・9月～10月



令和3年度調査に確認したクマゲラ以外のキツツキ類の痕跡

③ー1 植物モニタリング調査（R3モニタリング） 参考資料



エゾヒメクラマゴケの生育状況（R3.10.7）



タテヤマウツボグサの生育状況（R3.8.5）

③ー2 植物モニタリング調査（R3移植） 参考資料

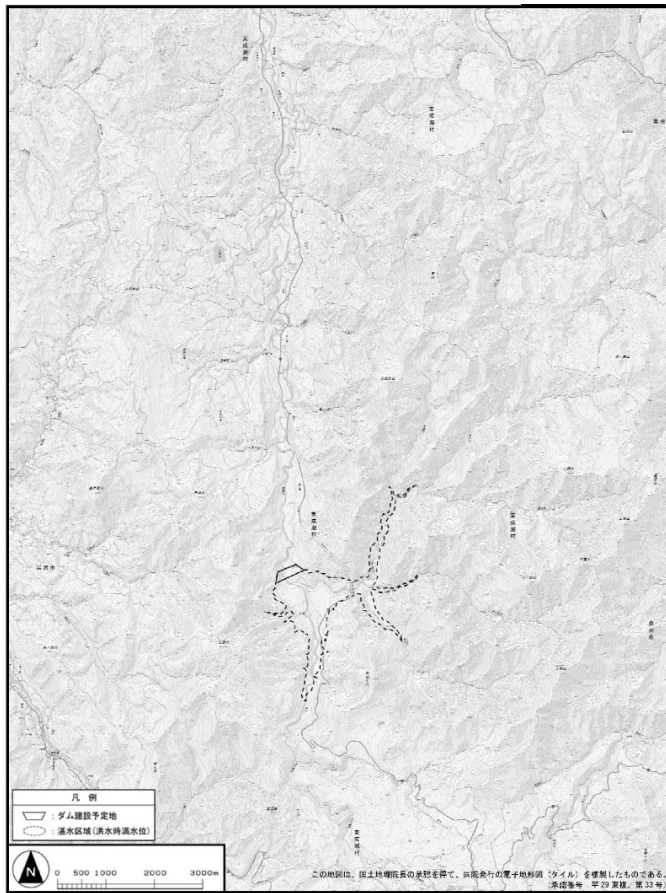


テイネニガクサの移植状況（R3.8月）



エゾスズランの移植状況（R3.10月）

④希少猛禽類調査 参考資料



希少猛禽類 調査範囲



クマタカ A の巣の状況 (R3. 7. 19)



クマタカ B の巣の状況 (R3. 7. 21)

⑤魚類調査 参考資料

調査項目	令和3年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
魚類調査	- 田子内地区 - 手倉地区 - 草の台地区	- 採捕調査 - 定置網 - 投網	- 春季 (6月上旬) - 夏季 (8月下旬) - 秋季 (10月上旬)



エゾウグイ



ウグイ



アユ



ニッコウイワナ



サクラマス (ヤマメ)
調査対象魚種



カジカ

⑥産卵場調査 参考資料

調査項目	令和3年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
産卵場調査	・カジカ4地点	現地踏査	春季（5月）



産卵場調査地点（ダム下流）

⑦大気環境調査（粉じん、騒音、振動） 参考資料

調査項目	令和3年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
粉じん	桧山台地区	降下ばいじん量	10月～11月
騒音	草の台地区	騒音レベル	10月中旬
振動	草の台地区	振動レベル	10月中旬



粉じん調査の実施状況



騒音、振動調査の実施状況

第6回 成瀬ダムモニタリング委員会

令和4年2月24日（木） 13:30～16:00

クラウンプラザホテル秋田 5階 カペラ（牡丹）

次 第

○ 開 会

○ 挨 拶 成瀬ダム工事事務所長
 松富委員長

○ 議 事

1. 第5回委員会でのご意見に対する対応
2. 令和3年度のモニタリング調査結果
3. 生息環境整備の検討
4. 令和4年度のモニタリング調査計画
5. その他

○ 閉 会

第6回 成瀬ダムモニタリング委員会 出席者名簿

1. 委員名簿

氏 名	所 属 等	備考
(委員長) 松富 英夫	秋田大学 名誉教授	
青谷 晃吉	環境省 希少野生動植物種保存推進員	
小笠原 嵩	秋田大学 名誉教授	
沖田 貞敏	秋田県自然史研究会 会長	
佐々木 明夫	日本鱗翅学会会員	
杉山 秀樹	NPO法人秋田水生生物保全協会 理事長	
野池 達也	東北大学 名誉教授	

敬称略